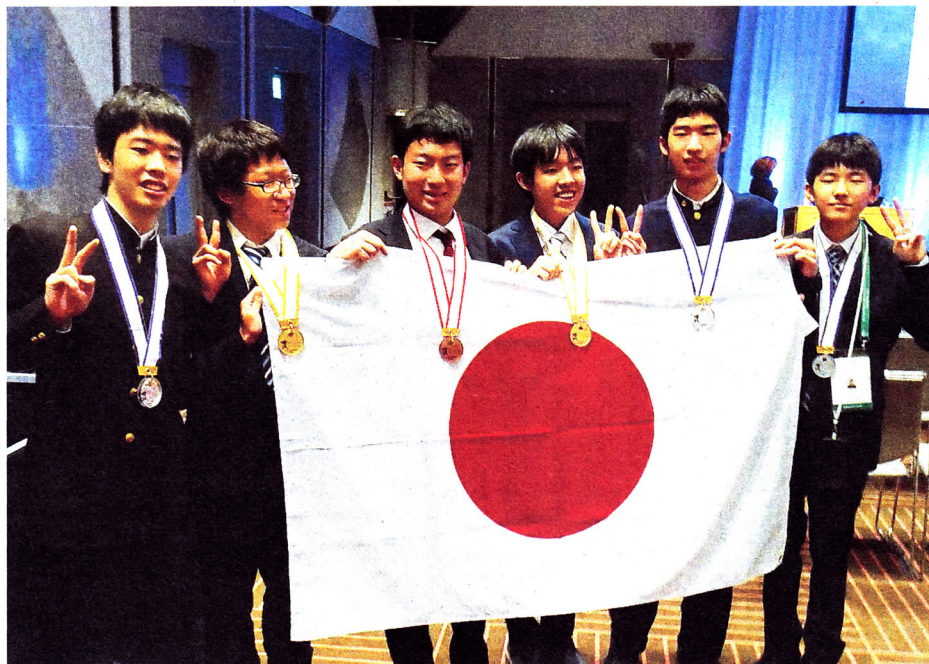


狩野慧志さん(右)ら国際
数学オリンピックの日本代
表6人 12日午後、千葉市

日本は国別6位



国際数学五輪
狩野さん「銀」
松本深志高1年

「実力以上の出来」来年は「金」狙う

世界各国の数学に秀でた高校生らが難問に挑む国際数学オリンピック(IMO)の表彰式が12日、千葉市で開かれ、日本代表6人は金メダル2個、銀3個、銅1個を獲得した。国別順位は112カ国・地域の中で6位となった。

金メダルは筑波大付属駒場高(東京)3年古屋楽さん(17)ら2人、銀メダルは松本深志高(松本市)1年狩野慧志さん(15)ら3人で、銅メダルは1人。狩野さんは「実力以上のものが出せた。来年も参加して金メダルを取りたい」と話した。

狩野さんの担任で数学教諭の柴那和さん(43)は「目標通りに銀メダルを獲得したことはすごい。素直に祝福したい」。狩野さんは普段から独自の課題に没頭するなど「数学に限ってはこだわって突き詰める」一面がある一方、同級生との共同学習にも積極的に取り組むなど「偉ぶったところがなく素直な生徒」という。柴さんは、世界の「数学仲間」とも交流できたのではと推し量り「まだ1年生なので今回の経験を将来に生かしてほしい」と期待した。

IMOは今回64回目、日本開催は20年ぶり。数学の能力を競う2日間のコンテストでは、それぞれ制限時間4時間半で3問ずつに挑んだ。国別順位の1位は中国、2位は米国、3位は韓国。